

■第1回富田林市地域福祉推進委員会 議事録

日時：令和3年5月10日（月）10時～11時30分

場所：オンライン会議

次第：1 議題

- (1) 本委員会設置要綱の改正
- (2) 第4期富田林市地域福祉計画の策定
 - ①アンケート（案）
 - ②計画骨子（案）
- (3) その他

会議の経過

- 開会あいさつ
- オンライン会議における確認事項の案内
- 17名中14名出席につき会は成立
- 傍聴の可否について公開を承諾

【A委員長】

- ・ いよいよこんな時代になり、オンラインで会議をすることになった。今は大学でもフルリモートでの授業となっており学生もこのように参加するが、やはりいつもの授業とは違い難しい部分があることは承知しているので、分かりにくい事などがあつた際にはぜひ確認していただければと思う。初回なので、そうしたやり方などもふくめ、みなさんと委員会をつくっていければと思う。
- ・ 実際、傍聴をどうするのかという話が出たので許可したが、では実際に傍聴をどうやるのかとなると、オンライン会議の傍聴のあり方ももう少し検討の余地はあると思う。そうしたひとつひとつルールをつくっていくことにもなるので、まずは今日やりながら何か不便な点などがあればフィードバックしていただければと思う。

○配布資料の確認

【A委員長】

- ・ では議案の1、設置要綱の改正について説明を。

○事務局より本委員会設置要綱の改正について資料説明

【A委員長】

- ・ 設置要綱における出欠に関する部分と課名変更によるものだが、何か意見はあるだろうか。
- ・ 何もなければ改定案について承認いただけるだろうか。

○一同了承

【A委員長】

- ・では議案2、アンケート案について説明を。

○事務局より第4期富田林市地域福祉計画の策定について資料説明

【A委員長】

- ・ではまず事前に意見をいただいているとのことなので事務局より紹介を。

【事務局】

- ・まず資料②-2、問1の⑤について「不登校はどれに当てはまりますか」との質問。これについては、強いて言えば3番目の選択肢の「閉じこもりやひきこもりの人」に該当するが、7番の「その他」に書いていただくか、必要であれば選択肢として追加してもよいので意見をいただきたい。
- ・問15について「福祉サービス＝高齢者、障がい者へのサービスをイメージしやすいが、子育て支援も含まれることが分かるようにしてほしい」との意見。これについては、福祉サービスの後に括弧書きで補足する方法を検討している。
- ・問27について「PTA、自治会はボランティアに含まれるのか」との質問。これについては、PTAや自治会などについては、自治会やPTAに属しているだけでは含まれないとの判断だが、それらに所属することで、選択肢にあるような活動に取り組んでいる人はそれらに該当する。
- ・問29について「活動するメリットを伝えるという項目を追加してはどうか」との意見。これについては、1番目の選択肢が「地域における福祉活動の意義と重要性についての広報・PR」となっており、ここにメリットという言葉を加えるか、新たに選択肢として追加するか、議論のうえ決定していただければと思う。
- ・次に同じく資料②-2、「対象者を無作為抽出2,000名程度としているが、16小学校区で抽出割合を均等にしてはどうか」との意見。これについては、事務局としても意見の通りだと考えており、地域福祉計画では最小単位が小学校区となっていることから16小学校区ごとに年齢層の偏りなども勘案しての抽出が必要であると考えている。ただ、特定の人をターゲットに絞っている訳ではないため「無作為抽出」としている。
- ・問33について「地域で暮らす人々が安心して暮らせるようにとあるが、安全・安心・快適に暮らせるようにとしてはどうか」との意見。これについては、次のテーマにも関係するが資料③の骨子案において3章の1の(2)視点4にある「地域で暮らす人々が安心して暮らせるように」など、その他5章や6章にも「安全・安心」という言葉が出てくるが、これらをいずれも「安全・安心・快適」としてはどうかとの意見も併せていただいているが、事務局としては快適さというのは生活を営む上で大事な視点であるという認識はあるが、地域福祉計画でいうところの快適さは「安全・安心」に包含されるものであると考えている。今後秋ごろになると思うが、骨子案に肉付けをした計画素案をご審議いただくので、その際に、改めてどのように表記すべきか文言等に対して意見をいただければと思う。
- ・次に同じく資料②-2、問13について「コロナ流行前後で状況が変わってくるのではない

か」と「市民アンケートではコロナウィルス感染拡大にあたって困ったことが問19で選ぶようになってきているが、他のアンケートでは自由記述欄があるので、一般市民向けにも自由記述欄を設けてはどうか」との意見。これについては、今市民が一番不安を感じているのはコロナウィルス感染症ではないかと思うこともあり今回アンケートに設問スペースを設けたものなので、まずは生活上での課題や福祉サービスでの不安等についてはコロナを除外して回答していただけるように配慮した形にしたいと思う。また、自由記載も可能なように検討したい。

【A委員長】

- ・色々事前質問をいただいたものについて事務局より回答を併せて紹介いただいたが、それらについて何かご意見は。

【B委員】

- ・最終的には校区交流会議でどういう方向で取り組んでいくのか話し合うわけだが、その際に各校区でどういう問題が起こっているのか、どのようにその地域の住民は考えているのかといったことを把握するためには校区ごとのアンケート調査結果が必要で、例えば2,000名の16校区だと1校区あたり125件を分配すれば、校区交流会議で参考にできると思う。
- ・前回の策定時は圏域ごとに抽出したと聞いている。それではどちらかに偏ってしまい少ない校区の意見などバランスが悪いため、校区ごとのアンケート結果を元に交流会議を行い一番住民が要求していることへの対応を考えていけるのではないか。

【C委員】

- ・地域からの意見を参考にするというのは非常に理にかなっていると思うが、無作為抽出というのはどうやって行うのか。たとえば住所で無作為に送付するのか。それとも地域の校区交流会から125名ほどを選んでお願いする形になるのか。

【A委員長】

- ・今回校区ごとに意見を取ることが重要である点は了解されているが、2,000を校区割りするのも手だが小学校区によって人口の多い少ないがありそこまで反映すべきか、また年齢割りにすると回答者は圧倒的に高齢者が多いため、あえてバイアスをかける手もある。そうすると、無作為といいつつ段々作為が入って来ることにはなるが、基本的には名前が分からないようにくじのように決めていくという点において無作為なものだ。この抽出方法については事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・16小学校区の校區別人口割合にもとづいて2,000件を割り振るのがまずひとつ前提としてあり、そのなかで男女比、年齢階層割合を考慮し、最後に端数分を委員長のご指摘にもあったように地域福祉計画では若い人の意見が重要になってくるので、若年層に重みづけして割り振る方法を考えている。

【A委員長】

- ・抽出の方法はどのように行うのか。

【事務局】

- ・住民にはすべて住民コードがついているので、その下一桁が3番と7番の人を選ぶといった形を考えている。

【A委員長】

- ・基本的な無作為抽出の方法だと思う。

【B委員】

- ・各小学校区でも町会が7、8個ほどあると思うが、町会毎に今どんな課題があるのかどんなことを考えているのかを聞くためには、町会毎の意見が必要だ。小学校区ごとの意見も重要だが校区交流会議では町会毎の意見がほしいので、校区の人数を町会数で割る程度の細かさまでいければいいのではないかと思う。
- ・若年層の意見を汲むのであれば、17歳以下の人間、生徒の意見も取り入れなければならないのに、アンケートの対象に入っていないというのは寂しいのではないかと思うのでそのあたりどう考えているのか。

【A委員長】

- ・町会毎というのは重要だが、おそらくそこまで細かくすると、個人、プライバシー問題が出てくることになる。技術的には可能だと思うが、今回の調査では難しい。その辺りは交流会議で吸い上げて補っていくといった組み立てになると思うのでご了承願いたい。
- ・若年層についてはまさにその通りでどこまで踏み込めるかというところだろう。場合によっては中高生向けにヒアリングの場を設けるというのも方法だと思う。今回のアンケートに、更に学生用を追加するのは難しいと思うが、補っていくことは重要だろう。

【D委員】

- ・校区に注目しながらやっていくというのは正しいと思うが、ただ市民アンケートを無作為抽出する理由はおそらく統計的な有意性を担保するために行うのだと思うので、いろんな作為を加えていくと統計的正確さが損なわれてしまうのではないか。

【A委員長】

- ・地域福祉計画の大前提としては行政計画であることがあり、また、先ほど意見にもあったように校区交流会議で地域毎の課題を吸い上げ、差分的に活用するというのも手だろう。完全な意見を聴取するというより、市全体の方向性を確認するためのアンケートであるということをご理解いただけたらと思う。そのうえで、校区レベルでの意見も聞ければありがたいといった形だと思っていただければと思う。

【A委員長】

- ・市民アンケートに限らず他のアンケートなどについても何かあればどうぞ。もし意見がなければ委員長と副委員長、事務局である程度調整し、みなさんに確認してもらいながら成案化していく方向で考えている。
- ・説明にもあったが、今回アンケートの種類が1つ増え、福祉サービス事業所向けと福祉関係団体向けに分けてある。確認したいが、ここはどのように分けたのか。

【事務局】

- ・基本的に福祉サービス事業所については前回と同じ形で高齢、障がい、児童関連の福祉サービス事業所とし、福祉関係団体は、先の福祉サービス事業所を除くNPO法人や市民公益活動支援センター利用登録団体と考えている。

【B委員】

- ・今度の校区交流会議でアンケートとどうマッチさせるのか、将来比較するうえでどうなのか、そのあたりが気になるのだが。

【A委員長】

- ・全体でいえばまず、このアンケートは地域福祉計画だけでなく地域福祉活動計画でも使うためのアンケートである旨がお願い文に記載してある。大前提としてこのアンケートがどのように使われるかを市民に示すことが倫理上必要となってくるので、どう活用するのか理解していただいたうえで回答していただく手続きが必要だろう。
- ・広く市の計画に活用するという意味のなかには校区交流会議や校区レベルでの計画づくりに反映させていくという点は理解できると思うが、もう少し丁寧いえば、そういった「校区レベルでの取り組みにも活用させていただきます」というところまで明記したほうが後々心配はないだろう。
- ・実態としてどの程度活用していけるかという話については、校区レベルでのデータを取るというのは今回初めての試みなのでそれを見てからの方がいいだろう。母数がどの程度になるかという問題がある。単純に割れば校区あたり120ほどとの話があったが、前回の回答率が半分ほどで最近の情勢ではさらに低下する傾向があり、実際の回答は少数になるだろう。それであれば、交流会議に出てきている人は地域のいろいろな状況を見ている人なので、その意見を擦り合わせて参考にするという可能性もある。これはやってみなければ分からないが逆により有効なことが分かる可能性もある。
- ・より積極的に校区ごとの調査をしたいとの意見については、今後地域福祉計画を小学校区レベルで立てるようという流れが出てくる可能性もあるので、それを先駆的に取り組んでいくというのは手間ではあるが別口として考えていく方がより効果のあるものになるだろう。そのために校区交流会議を実施している面もあり、毎回アンケートをするのではなく、ある程度校区の実情を分かっている人が出てくる訳なので、そこを補うために今回の調査データを使うといった2段構えで考えればいいだろう。それでも不十分であればさらに次の段階へ進めればいい。
- ・ひとまず、今回はこのような方法でやってみて、どの程度のデータが出てくるかというのは興味深い部分だと思う。

【C委員】

- ・アンケート自体とても内容が良くて、こういうことを目指せばいいんだということが回答する人の勉強にもなる。
- ・校区交流会議の成長とともに今回のアンケートが元となって、増進型地域福祉という前提のなかでいえば校区を打ち出したのは今回からなので、実行組織が成長していくかどうかのバロメーターとなればいいと思うし、地域の校長としてはその点を見ていきたい。

【A委員長】

- ・今回100点でなくても、そこからどう伸ばしていくかというくらいの考え方でいきたいところだ。

【E委員】

- ・アンケートについて、各校区にフィードバックして使うということであれば、回答者も地域の問題点あまり出では嫌だということになりかねないのではないかと。

【A委員長】

- ・重要な点だ。あくまでもアンケートは個別の問題を取り上げてというものではなく、市全体としてどういうものを把握するためのもの。ただ、実際に分析する途上で校区ごとにある程度の傾向は把握できるとのことなので、そのあたりの点は冒頭のアンケートについ

での案内書きで校区の個別具体的な問題というより傾向を把握するためのものですといった書きぶりをしていくなどし、あくまでの市全体の政策を考えるうえでそのなかで校区の傾向が分かればそれを校区での取り組みにも活かすことが出来るといったあたりを理解していただくことで倫理上の問題をクリアしようということになる。

【F委員】

- ・うちの法人は子育て支援をやっているNPOであるが、地域子育て支援拠点事業を市から委託も受けている。アンケートが福祉サービス事業所と福祉関係団体に分かれているが、ひとつの事業だけを実施しているところなら明確だが、自主事業として活動している部分もある場合、どちらの立場で回答することになるのか疑問と感じた。
- ・アンケートを読むことで、こういうことをするんだという勉強になるという意見には賛成だ。参加したことのあるボランティア活動を問う設問内に自治会やPTAを入れることで、自覚のないまま活動参加している人へも自分もボランティア活動をしているという意識付けにつながるので、上手く取り入れてもらえればと思う。

【A委員長】

- ・まず最初の回答する立場については検討したいが、もし何か具体的な意見があれば聞かせていただきたい。両方のアンケートが来たなら両方答えるというのも手かとは思いますが、少し検討したい。
- ・アンケートは意見を聞くだけでなく、あえて解説的にすることで理解してもらい狙いがあり、指摘のように自治会やPTAしか活動していないという人にもそれはちゃんとした活動であるという意識付けの効果が得られればと思う。

【C委員】

- ・PTAについてだが、ほぼ全員入っていただいているので、本部役員であるとか、役員として振り分けしなければ、ほぼ全員がそこに○をつけることになる。

【A委員長】

- ・検討したい。

【D委員】

- ・うちも福祉関係の事業もいろいろやっているが、定款としては人権に関する啓発・交流が主な目的なので福祉団体に入るのかと思うが、定款や団体の主要な事業を基準に分けていけばいいのではないかと思う。

【A委員長】

- ・具体的な意見だと思う。ふまえて検討したい。
- ・いろいろ意見をいただいたので、前提としては提案原案を元にして、修正について委員長、副委員長、事務局で調整して、みなさんにフィードバックしながら進めたいと思うがよいだろうか。

○一同了承

【A委員長】

- ・では沢山の意見ありがとうございました。非常に積極的な意見もいただいたと思うので、ぜひ活かしていきたいと思う。今日言い切れなかった意見などがあれば事務局に届けてい

ただきたい。

- ・では次の案件、骨子案について説明を。

○事務局より計画骨子（案）について資料説明

【A委員長】

- ・計画の骨子ということで出していただいたが、少し私と事務局の認識違いがあったようで、今日実はこの骨子を承認していただくという予定だったが、第3章などは既に中身が出ているようなものだ。この骨子の枠組みは構わないと思うが、中身の部分はこれからアンケートを行ったりして議論のうで決まる部分であり、今ここでは決められないのではないだろうか。枠組みの大枠としてこのような構成で行くということをお示しいただくためにお示しする資料ということではよいだろうか。

【事務局】

- ・その方向でお願いしたい。まずはイメージを持っていただければと考えている。

【A委員長】

- ・では内容についてはまだ入らず、このような柱建ての構成だと考えていただきたい。
- ・特色としていえば、地域福祉活動計画は民間である社協が中心で立てる計画になるが、前回まではこれもほぼ一緒になっていたが、今回から社協としての独立性を持たせ地域福祉活動計画を立てるという形にしたというのが新しい方向のひとつだ。
- ・もうひとつは増進型地域福祉を進めて行くというあたりを継続していくといったあたりを考えながら、市全体での取り組み、サービス事業における3つの圏域、住民レベルでの校区交流会議といった作り込みをしていく枠組みを考えている。

【事務局】

- ・この部分についても事前意見をいただいているので紹介したい。
- ・「小学校区は福祉活動の活発になるつながりが明確だと思うので、中学校区だけでなく小学校区にも予算をつけ密着した活動につなげてほしい」との意見。
- ・「川西小学校にはSDGsルームを開設し、ひとりも取り残さない社会の地域福祉を推進し役立てていきたいと思う」との意見をいただいている。

【A委員長】

- ・校区交流会議への予算化については、市から直接というのはなかなか難しいが、社会福祉協議会を通しての助成などもはじまっており、そのあたりをさらに進めていくようにとの意見だと思うので、みなさんの議論のなかで進められればと思う。
- ・組み立てで見ると、前回から変わった部分があるが、第2章の入れ具合をどうするかと個人的には思っている。第2章で現状やアンケート結果を掲載することになっているが、書き方としては現行計画を踏襲するという事だと思う。ただ、一番読んでほしいのは3、4章にあり、ここを最初に読んでいただきたいので、言いたいことを最初に持ってきた方がいいのではないかと感じている。アンケートなどデータは後に持って来てはどうか。この辺りの入れ替えも検討してもいいのではないかとと思うので、今後みなさんとも具体的に議論したい。
- ・枠組みとしてはご理解いただけたと思うので、内容については今後検討を進めたいと思う

が、今後の会議のスケジュールがどうなっているのか説明をお願いしたい。

○今後のスケジュールについて案内

【事務局】

- ・ アンケートについては5月下旬に発送し6月11日を提出期限とし、集計結果をふまえながら計画骨子に肉付けを行い8月中には素案を作成したいと考えている。その後庁内や関係機関との調整を経て素案をブラッシュアップし、早ければ10月頃の委員会で意見をいただければと考えている。
- ・ 差し当たり次回の委員会としては、7月頃を予定しており、現行計画の総括並びにアンケート集計結果の報告を予定している。

【A委員長】

- ・ では7月の時点でまたみなさんの意見をいただけたらと思うので、今回この骨子を決め切るのではなく、大体この枠組みでやっていきますよということでご了承いただき、7月にはアンケート結果などを見ながら計画の枠組み（計画骨子）を最終的に確認したい。

○一同了承

【A委員長】

- ・ それではその他何かあれば事務局よりどうぞ。

【事務局】

- ・ はじめてのオンライン会議ということもあり委員長には難しい進行のなか、委員のみなさんには発言の仕方が難しいなか、貴重な意見をありがとうございました。
- ・ 今後のスケジュールについては先ほどご説明させていただいたが、7～9月に実施を予定していた校区交流会議の全体会については新型コロナウイルスの感染拡大等の観点から開催は困難かと思われる。ただ、計画策定において非常に重要な部分であるので、何らかの形で意見を聴収していけるように検討を進めているところです。

(以上)